

2025年度

保育科の教育活動に関するアンケート

(卒業年次アンケート 分析結果)

1. 授業（学修）に関すること

昨年と同様、科目数（Q6）に関する満足度は高かったが、Q7：時間割編成（時間帯や1週間の密度）については4点を下回った（「普通」の評価）。効率よく学修に取り組めるよう、現状の学生数に応じて時間割編成を工夫しているが、課題の重複により負担感が大きい時期もあったためと考えられる。

印象に残った活動（Q8）では、造形・音楽・身体表現発表会などの「表現活動」だけでなく、実習や保育・教職実践演習などの「実習」「演習」科目が挙げられた。この傾向は昨年と同様である。その他には、社会的養護や乳児保育が挙げられた。

その一方、在学中にもっと勉強したかったこと（Q9）としては、特別な支援が必要な子どもとの関わり方や嘔吐処理など、保育現場で丁寧かつ慎重に対応する必要がある事項が挙げられた。

2. 学生生活に関すること

（1）教職員の学生対応やクラス制、友人関係に関すること

教員の学生対応（Q15, Q16）に関する満足度は例年通りの水準だが、本年度は「やや不満」や「不満」と答えた学生もいた。専任教員間でも共有し、学生対応について真摯に振り返りたい。友人関係やクラス制についても同様であり、「やや不満」や「不満」と答えた学生が一定数いた。「2年間で学年の絆が深まるような保育科全体で楽しめる行事が欲しかった」という意見・要望（Q31）も踏まえ、クラス運営や学年全体の支援について検討していきたい。

（2）施設や設備に関すること

バスの運行時間や本数に対する満足度（Q18）は昨年よりも改善したが、「バス停から教室までの距離が遠い」という意見が新たに挙げられた。この他、「16号館に電子レンジや給湯器が欲しい」などの声もあった。保育科では、頻繁に学生食堂を利用する学生が少ないこともあり、例年、同様の要望が挙げられている。学生生活全般に対する満足度（Q24）は総じて高い評価（5点満点中4点以上）だが、これらの意見を踏まえてより学修環境づくりに励んでいきたい。

3. 就職支援に関すること

教職員の就職支援（Q26, Q27）に対する満足度は高く、いずれも5点満点中4点以上の評価であった。ただし、就職ガイダンスやセミナーへ1回以上参加した学生は6割に留まっている。昨年よりも低下しているため、次年度は、学生の参加をより促していきたい。

4. 総合的に振り返って

総合的な満足度（Q29）は、例年の通り高評価だった。

コマジョらしさ（Q30）としては、「教員との距離の近さ」「仲の良さ」が最も多く、「挨拶」「礼儀」や「明るさ」「元気さ」が続いた。他方、「実習指導の手厚さ」や「厳しいがためになる」との声もあり、2年間という短期間で保育者養成を進める短大ならではの長が挙げられた。

上述した「コマジョらしさ」に加え、「1. 授業（学修）に関すること」の結果も踏まえて総括すると、学生は、より保育現場に近い事項を学びたいと考えていることがうかがえた。本年度は、新しい教育目標を策定し、学修成果に「専門性」や「実践力」を掲げた。次年度以降は、保育の最新事情を学ぶ授業科目「現代保育実践の課題」に加え、「保育学ゼミ」も開講され、学生一人ひとりの探究テーマに関連したフィールドワークも増える予定である。このような現場に触れる機会を増やすことで、学生たちの確かな「専門性」や「実践力」の獲得を促していきたい。